
献 辞

白 井 洋 子

(英文学科長)

ソーントン不破直子先生は1983年4月に本学に着任されて以来28年という長い年月を、英文学科の専任教員として教鞭をとってられました。すでにそれ以前の1975年4月から非常勤講師として学生への教育と指導に当たってくださったことを含めると、総計35年ものあいだ、大学全体のそして何よりも英文学科のためにご尽力いただいたことになります。その間、先生はご専門のアメリカ文学と比較文学領域で幾多の業績を積み重ねてられました。先生は、附属豊明小学校に入学されてのち、英文学科で学ばれ、卒業されるまで、本学での一貫教育をそのままに受けてこられた方でもあり、その意味では、人生の大半を日本女子大学の歴史とともに歩んでこられたことになります。

先生は、英文学科学科長、大学院文学研究科委員長、大学評議員を歴任されただけでなく、2007年には先生自らがご提案による日本女子大学リカレント教育・再教育システム構築のための企画が文部科学省GPに採択されるや否や、まったく新規のアイデアによるプロジェクトの事業担当者とし、敏腕を発揮してられました。これは本学の社会的役割と存在意義、さらには女性の社会的貢献の意味について知り尽くしておいでだったソーントン先生だからこそ成しえたお仕事でした。さらには公的社会的活動の分野においても、日本学術振興会化学研究費委員会専門委員、大学基準協会大学評価委員、日本比較文学会理事、日本英文学会評議委員をはじめと

して数々のお役目を果たしてこられました。先生が教育と研究、学務、そして社会的活動に、誠心誠意取り組んでいらしたその一つひとつをとってもこの紙面で言い尽くすことはできませんが、その自由闊達に行動なさるお姿は、先生を知る者たちの記憶に楽しく鮮やかな思い出として刻まれていくことでしょう。

ソーントン先生は文学研究において、とりわけ理論を重視され、しかも文学を社会科学的視野と世界史的文脈から捉えることを学部生院生に指導されておいででした。『ギリシャの神々とコピーライト——「作者」の変遷、プラトンからIT革命まで』（学藝書林、2007）はそうした先生の学問的手法を存分に駆使されたご著作です。先生のお仕事から、今後も多くの学生院生はその博識と鋭い社会批判精神、実践力を学んでいくことと思われます。

時には頑固にご自身のお考えを主張され、いつも自然体で行動していらした先生は、まさに自由人としての魅力に溢れた方でした。そのような先生から私たちは何と多くのことを学ばせていただいたことでしょう。ソーントン先生のご退職に際して、これまでのご尽力、ご指導にあらためて深謝いたしますとともに、先生のご健康とさらなるご活躍をお祈り申し上げ、先生の退職記念号献呈のことばに代えさせていただきます。
